

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成20年9月解析分)

1 疾患別定点情報

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成20年8月分(平成20年8月4日～8月31日:4週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	9	0.02	0.00		10	百日咳	20	0.07	0.02	↘
2	RSウイルス感染症	35	0.12	-	↑	11	ヘルパンギーナ	216	0.76	1.17	↓
3	咽頭結膜熱	214	0.75	0.73	↘	12	流行性耳下腺炎	36	0.13	0.74	↓
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	143	0.50	0.49	↓	13	急性出血性結膜炎	0	0.00	0.05	
5	感染性胃腸炎	838	2.95	3.02	↘	14	流行性角結膜炎	92	1.21	1.25	↘
6	水痘	172	0.61	0.56	↓	15	細菌性髄膜炎	2	0.02	0.01	
7	手足口病	397	1.40	1.22	↓	16	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.12	
8	伝染性紅斑	36	0.13	0.20	↓	17	マイコプラズマ肺炎	11	0.13	0.26	↘
9	突発性発しん	219	0.77	0.71	↘	18	クラミジア肺炎	1	0.01	0.00	

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成20年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
19	性器クラミジア感染症	54	2.35	2.02	→	23	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	107	5.10	5.81	↘
20	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.65	0.74	↘	24	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	19	0.90	1.12	↗
21	尖圭コンジローマ	12	0.52	0.51	→	25	薬剤耐性緑膿菌感染症	5	0.24	0.42	
22	淋菌感染症	35	1.52	0.86	→						

「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)
報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

急増減疾患!!(前月比2倍以上増減)

- 急増疾患 RSウイルス感染症(8件 35件)
- 急減疾患 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(382件 143件)
- 急減疾患 水痘(426件 172件)
- 急減疾患 手足口病(880件 397件)
- 急減疾患 伝染性紅斑(74件 36件)
- 急減疾患 ヘルパンギーナ(1,106件 216件)
- 急減疾患 流行性耳下腺炎(101件 36件)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について,県内178の定点医療機関からの報告を集計し,作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13,14	19～22	15～18,23～25	
定点数	43	72	19	23	21	178

2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	63	結核(広島市保健所(18),福山市保健所(10),呉市保健所(11),広島地域保健所(3),芸北地域保健所(3),東広島地域保健所(3),尾三地域保健所(11),福山地域保健所(2),備北地域保健所(2))
三類	35	細菌性赤痢(1)(芸北地域保健所),腸管出血性大腸菌感染症(O157)(30)。(広島市保健所(6),福山市保健所(15),尾三地域保健所(8),備北地域保健所(1)) 腸管出血性大腸菌感染症(O26)(3)。(広島市保健所) 腸管出血性大腸菌感染症(O128)(1)。(福山市保健所)
四類	4	レジオネラ症(2)(広島市保健所), デング熱(1)(福山市保健所), 日本紅斑熱(1)(福山地域保健所)
五類全数	12	後天性免疫不全症候群(4)(広島市保健所(3),福山市保健所(1)), 麻しん(1)(福山市保健所), 梅毒(2)(福山市保健所), ウイルス性肝炎(B型)(2)(広島市保健所,福山市保健所) アメーバ赤痢(2)(広島市保健所), 急性脳炎(1)(広島市保健所)

3 一般情報

麻しん・風しんの定期予防接種を受けましょう。

麻しんは、「はしか」とも呼ばれ、発しんと発熱を主症状とする古くから知られた感染症です。医療の進歩した現在でも、発症した場合には、死に至る危険もある重大な疾患です。

先進国では、麻しんは稀な病気になりつつあり、南北アメリカ、中東、ヨーロッパの一部では、ほぼ排除されています。

世界保健機関(WHO)では、日本を含む西太平洋地域において、2012年までに麻しんを排除するという目標を定めています。これを受けて、厚生労働省は、2012年度の麻しん排除を目標に、2007年12月麻しんに関する特定感染症予防指針を定めました。麻しんを排除するために、2008年4月から、市町が実施する定期予防接種の対象者に2012年度までの5年間、中学1年生、高校3年生相当の年齢の者を追加し、麻しんの流行を阻止するために95%以上の接種率を目標とされました。1回の予防接種では、抗体が下がり、罹患する例が報告されています。定期予防接種の対象者の方は、この機会に2回目の予防接種を受けましょう。

広島県でも麻しんを排除することを目標に、麻しんの発生動向の調査、定期予防接種の積極的勧奨、積極的疫学調査の実施等を行っています。

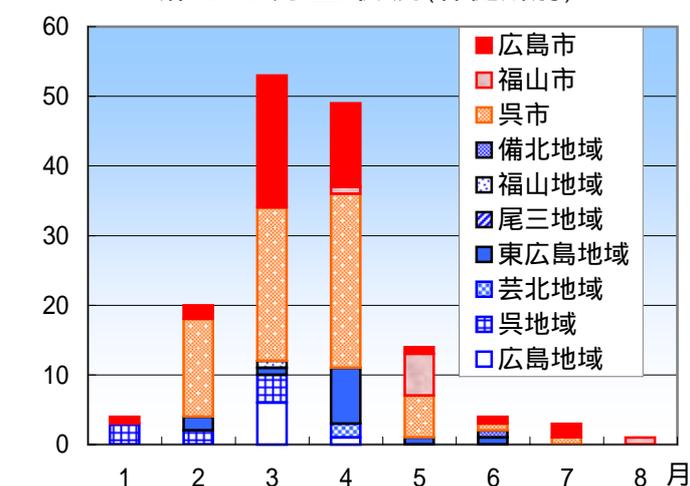
広島県内の麻しん風しんの定期予防接種の接種率調査結果(4月から6月)

	対象者	接種対象者数	接種者数(人)	接種率(%)	全国順位	県内市町接種率の幅
3期	中学1年生相当	27,314	10,088	37.0	24	大崎上島町(73.8%)～世羅町(11.2%)
4期	高校3年生相当	28,711	8,923	31.2	21	安芸太田町(50.8%)～世羅町(9.1%)

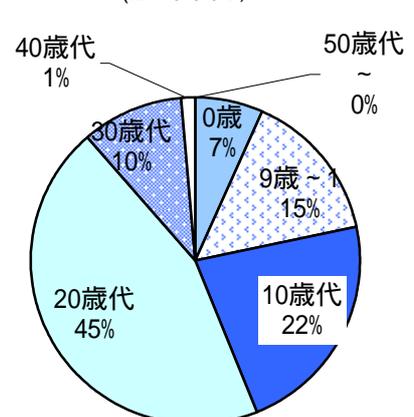
麻しん・風しんは、予防接種で予防することができる病気です。

自分自身のために、周りの人たちのために、定期予防接種の機会を逃さず、予防接種を受けましょう。

人 麻しん発生状況(保健所別)



麻しん患者年齢別割合(広島県内)



麻しん・風しんの定期予防接種に関するお問い合わせは、お住まいの市町予防接種担当課へ